

御座候様仕度奉存候、以上

文久元年酉十月

〔小笠原島記〕小笠原島ニ有之品々荒増之覺

一桑木多く野蠶多く桑ニ出生有之、

棕栢ニ似テ甚高キ木、ソロナルベシ、水木塚、左江麻多シ、

一山漆多し、漆の木大木、小木共夥敷有之、

海岸石間ニ生ズ、大木を見ず、季□□並花、九月實熟す、食するに味よし、

一杉三抱四抱の大木多し

此木ヲ煎じ、數度染て鳶色と成、濱もつくといふに蘇木有りといふとなり、

一檜帆柱ニ成べきもの多し 内 檜 内 楠 大木多し、内 檜類多し、内 椎多し、柳何れも 雜木也、夥敷有

之、内 椰子 内 檳榔子 内 白檀 内 木香 内 丁子 内 胡椒 内 人參 朝鮮人參に勝れりと申候、 内 甘草 内 肉桂

氣味辛く 内 龍眼 肉多し、内 山芋 内 口芋 内 蕨 内 狗脊 内 葛 内 鶴 内 鴈 内 鴨 内 鶯 但黄色 内 鳩 内 小

鳥多し、内 鳩の様成四足成鳥多し、正寶年中ニ取來て見世物ニ仕候、内 白鳥有、兩羽翼一間程あり、

内 琉球蝙蝠あり、内 鯛多し、内 鱒の類多し、内 鯉多し、内 鱒多し、内 鮫多し、内 鼈甲龜多し、内 鮪多し、内

成る、海老 四五尺も有、長サ九尺も有之、延寶 鮑差渡壹尺四五寸、内 海豚 内 鯨多し、内 島々に

あり、捕場あり、南方海島志ニ、此外ニ大壯蠣洋カ、みちと云魚多く有之、油取候へば多しといふ、内

かき、又コロヒカキと云ふ甚大なり、内 眞砂に砂なるべし、内 金口 内 水銀其外金砂金石の類多

し、

右の類岩山に有之、其外金砂金石之類多し、寛永三年ニハ金砂多く取來候、延寶年中、御檢使之節

ハ不取來、右之外異木品々多く、海草ニハ珍敷物有といへども、名を不存候、尤書付にも不仕、取不